

写真 河村正和
映像
出演 ペナルティワッキー
ディレクター 棚木 和人
カメラ、音響、照明 株式会社よしもとブロードエンタテインメント
デザイン オガワユミエ
制作 よしもとクリエイティブ・エージェンシー 前原 まさみ
発行 宮城県栗原市

制作協力
衣装協力 若柳地織
撮影協力 もぎたてフルーツ工房 土里夢
山菜茶屋ざらぼう
フィールドヴィレッジファーム
座主窯
栗原市花山農山村交流センター ふるさと交流館
湖畔のみせ 旬彩

2016年9月

伊達藩の時代から宮城県の穀倉地帯だった栗原市では、食料としての米の生産に伴い、副産物の稲藁が暮らしの様々な場面で利用されてきました。
藁の縄は、より合わせて編むことで「絢う」とよばれ、単純に編み込むよりも、「より」をかけることで強度が増します。
地方の暮らしは、他人との関わりが不可欠といえます。家族や友人、地域の人々、仕事場の仲間など、一人で生きているつもりでも、実は他人との関わりがあってこそ、健康な暮らしを営んでいけるのではないかと感じます。
暮らしの営みは、なんだか藁を「絢う」と同じような気がしますね。

来てみらいん！くらしたい栗原へ

栗原市移住定住サイト
<http://www.kurihara-tju.jp>

【お問い合わせ】
宮城県栗原市企画部企画課 成長戦略室
〒987-2293 宮城県栗原市築館薬師一丁目7番1号
TEL：0228-22-1125 FAX：0228-22-0313
E-Mail：teijiyusokushin@kuriharacity.jp



栗原市 × YOSHIMOTO
宮城県栗原市移住定住ガイドブック

移住者インタビュー

Interview book



移住者:渡辺信雄さん(67歳)
職業:シャーベット加工・販売
家族:妻
移住歴:2年
移住前の住所:東京都日野市

動画はこちら!



もう少し世の中と前向きにつながっているような暮らしができればいいなと、それで田舎へ行こうと思い立ちました。

40歳くらいのときに「定年退職したあとはどうしようかな?」なんて考えていました。都会で年金をもらって暮らすとね、やることがないんじゃないかと思って。もう少し世の中と前向きにつながっているような暮らしができればいいなと、それで田舎へ行こうと思い立ちました。ここに来てから、自分の人生が始まって、自分の時間になるんですよ。あと田舎に住むなら朝は早いですよ。夜型生活は都会で終わり。おてんと様が出ていたら朝の始まりで、光で目が覚めるんですよ。

**移住に賛成する人なんていないですよ。親戚も家族も。
蕎麦を食べたお客さんは「おいしい」って言ってくれるね。**

沖縄も候補だったんだけど、栗原を選んだのは たまたまだよ(笑)。

俺は走りながら考えるから。

だいたい移住に賛成する人なんていないよ、「やめておけ」って言う。親戚も家族も。

蕎麦屋を始めたのは たまたま新聞で蕎麦打ち教室の記事を見て、申し込んで1年間通った。

蕎麦を食べたお客さんは「おいしい」って言ってくれるね。

移住者:伊藤廣司さん(68歳)

職業:そば屋 兼 農業

家族:妻・子

移住歴:12年

移住前の住所:宮城県仙台市

動画はこちら!



花山のキーンと冷えた水で締める 打ちたてのそば



一つひとつ丁寧に盛り付けをする奥さん



新鮮な山菜は、揚げたての天ぷらで



納屋をリノベーションした店内には囲炉裏も



移住先として決めた、山間にひっそり佇む住居兼店舗



野村さん曰く、愛情を注いで飼育すると、懐いて近寄ってくるそう。



一頭一頭、乳房の張り具合やツヤなどから健康状態を確認



徹底した衛生管理のもとでの搾乳



毎日、新鮮な生乳を出荷



人間関係はどうやって作っていけばいいか不安でした。

今はライバルでもあり、お互いに協力しあわないといけない職業です。

道路工事で立ち退きすることになり、たまたま酪農家の人の家に空きが出て、移住を決めました。

引っ越しを手伝ってもらったけど、人間関係はどうやって作っていけばいいか不安でした。今はライバルでもあるんですけど、お互いに協力しあわないといけない職業でもあるんですよね。「あそこの家は いい牛乳を出してる」って聞くと、負けてられない、と思うし、刺激し合える感じ です。

移住者：野村泰仁さん(42歳)
職業：酪農家(牛50頭)
家族：妻・子(6歳・3歳)・父・母
移住歴：7年
移住前の住所：宮城県登米市

動画はこちら!





すべてが1点もの、焼き締めて作られる褐色の碗や皿



花山湖が一望できるギャラリーには近作の展示も



土に生命を吹き込む瞬間

**どこにいても無理していれば続かないし、
自然に何が出来るかを考えることだと思いますよ。**

修二さん「岩手で修行していて、栗原には釣りで遊びに来ていました。その時から独立するなら栗原にしようと考えていました。」

奥さん「よく聞かれるんです。『どこで買い物するんですか?』とか。

でも、どこにいてもなんでも手に入る時代ですからね。

あと 近所の人との付き合いも、どこにいても変わらないと思うんです。

どこにいても無理していれば続かないし、自然に何が出来るかを考えることだと思いますよ。」



移住者: 工藤修二さん(64歳)

職業: 陶芸家

家族: 妻・義母

移住歴: 25年

移住前の住所: 岩手県一関市藤沢町

動画はこちら!



この後、釉薬をかけず4日間にわたり成形した土の器を焼き締める

移住者：佐藤真子さん(33歳)
職業：地域おこし協力隊
家族：夫・子
移住歴：1年目
移住前の住所：福島県三春町

動画はこちら!



**栗原のことを初めて聞いたときは「どこ？」って思いました。
酒造の場所が6つあるって聞いたんです。お酒が好きなんですよ。**

旦那から栗原のことを初めて聞いたときは「どこ？」って思いました(笑)。
栗原を見学してお餅の文化があるっていうのを知って、あとお酒。
酒造の場所が6つあるって聞いたんです。
お酒を飲んでみたらおいしかった。お酒が好きなんですよ(笑)。



移住者:阿部幹司さん(44歳)
 職業:太陽光発電所経営
 家族:妻・子(9歳・7歳・3歳)
 移住歴:6年
 移住前の住所:宮城県仙台市

動画はこちら!



**栗原は何もないのが魅力です。何もないと子供が工夫しはじめるんですよ。
 生きる強さはそういうところから生まれるのかと思います。**

ゆめこちゃん「前に住んでた家はせまかった。いまの家は広い、古いし(笑)。」
 さきこちゃん「木の実 食べたりしてる。ぐみの実、とって食べたり。」
 奥さん「栗原は何もないのが魅力です。何もないと子供が工夫しはじめるんですよ。
 「これは食べられるかな?」ってかじってみたり、野生的になったり。生きる強さはそういうところから生まれるのかと思います。都会の便利なところから、何もないところで工夫をして生きるようになるので、私もお金はあまり使わなくなりました(笑)」



地元でとれた食材を使い手作りで提供している



手作りの梅干しで、思わずこの顔



木の質感を感じる店内はホッとできる癒しの空間



奥さんが店長のカフェ「湖畔のみせ 旬彩」



かなこちゃん「大きくなったらアイドルになりたい」